

沈没船から油が海上へ流出

平成22年12月5日午前7時05分頃、今治港内岸壁を散歩中の市内在住男性から当部へ「岸壁に係留してあったと思われる船舶が沈みかけており、海上に油が浮いている」との通報がありました。

当部巡視艇せとぎり乗組員により、現場確認したところ、長期係留中の旅客船（15トン）が沈没し、同船に係留されていた小型船舶も係留索に繋がれた状態で沈みかけており、付近海上には沈没した船舶から流出したと思われる薄い油が浮流しているのを発見しました。

漁業被害等が発生するほどの浮流油ではありませんでしたが、当部監視取締艇により、浮流油の航走拡散等を実施し、午後3時30分頃に浮流油は消滅しました。

【現場写真】 沈没した旅客船



【現場位置図】

